

河川分科会河川整備基本方針検討小委員会報告

- ・河川整備基本方針の策定:大和川水系、吉井川水系、日野川水系
- ・河川整備基本方針の変更:斐伊川水系

●小委員会開催

- ・大和川水系及び吉井川水系:9月24日、10月28日
- ・日野川水系:10月17日、11月7日
- ・斐伊川水系:11月25日、12月2日

●各水系に関する主な委員意見、質問とこれに対する対応、説明

○大和川水系

(河道計画)

【意見】亀の瀬の開削にあたっては、河床低下を抑えるという点からも水面形がどうなるのか、技術的な面から十分な検討が必要である。

【説明】亀の瀬狭窄部では、バイパストネル等の人工的施設や河道掘削により、計画高水流量 $3,500\text{m}^3/\text{s}$ を安全に流すことが可能であるが、亀の瀬開削後、床止めを設置しない場合には、亀の瀬より上流で河床が低下傾向となるため、26k～32k で床止め等により河床の安定化を図ることが必要である。亀の瀬狭窄部の開削にあたっては、洪水時の水面形等のモニタリングを行い、河床低下等の解析・検討を行った上で実施する。

【質問】柏原堰堤の下流で河床が大きく下がっており、柏原堰堤がないと河床の

低下が上流に延びるが、今後どのように対処するのか。

【説明】柏原堰堤より下流(5k～17k)において、洪積粘土層にまで河床の低下が及び、今のところ河床低下が収まっているが、河床変動計算によると、さらに河床低下することが予測される。また、柏原堰堤より上流(17.6k～20k)でも、河床低下が予測されるため、床止め等により河床の安定化を図ることが必要である。今後河床低下状況等をモニタリングし、土砂動態の把握に努め、適切に河道管理を行う。

(治水対策)

【意見】狭窄部上流で浸水被害が多いため、市街化を抑制したり、大和川流域ではため池が多いため、ため池の活用ができないか。

【説明】昭和 30 年代後半から急激な流域開発が行われ、昭和 57 年に大和川北部が総合治水対策特定河川に指定され、総合治水対策を実施している。総合治水対策の一環として、市街化調整区域の保持やため池の活用等に取り組んでいるが、昭和 57 年から平成 17 年に約 2,000ha が市街化されており、今後、治水面からの土地利用規制について検討が必要である。ため池の活用については、全体で 170 万 m³ の治水容量を確保する計画となっており、現在進捗率は 73% である。

(その他)

【意見】大和川の文化的意味、歴史的意味の重要性を認識し、「母なる川」として扱うようにすべき。

【対応】本文で記載することとした。

○ 吉井川水系

(内水対策)

【質問】地域にとっては、本川が切れなくても、内水で浸かることは問題だが、その対応をどうしているのか。

【説明】昭和 51 年 9 月洪水、平成 2 年 9 月洪水を受けて、干田川、千町川で激甚災害対策特別緊急事業等により放水路の整備、築堤、河道掘削等の河川改修を行うとともに、排水機場、水門等の整備による内水対策を国と県が連携して実施している。

(環境)

【意見】吉井川と海では生物相につながりがあり、一体としてとらえることが必要でないか。

【対応】本文で記載することとした。

○ 日野川水系

(基本高水)

【質問】気候変動の影響で中国地方は 1.1 倍程度の降雨量になると予測されている。日雨量データによる確率からの検討では、2 番目に大きな流量として $4,700\text{m}^3/\text{s}$ となっているが、雨量を 1.1 倍とした時の流量はどの程度になるのか。

【説明】2 日雨量データによる確率からの検討において、流量が第 2 位となる平成 16 年 10 月型降雨を対象に、計画降雨量を 1.1 倍とした場合の流出量を算定すると、基本高水のピーク流量 $5,100\text{m}^3/\text{s}$ に対して、約 $5,300\text{m}^3/\text{s}$ となり、

概ね同程度の流量である。

【質問】基本高水のピーク流量の比流量を他水系と比較して整理して欲しい。

【説明】中国管内の計画規模 1/100 の 8 水系について、比流量の平均値は $6.4\text{m}^3/\text{s}/\text{km}^2$ であり、一方、日野川の比流量が $6.0\text{m}^3/\text{s}/\text{km}^2$ であることから、同規模の集水面積を持つ他の水系と比較して大きく変わらない。

(環境)

【質問】日野川では回遊魚が多いということだが、堰が多いということが魚類等の移動に影響していないか。

【説明】日野川本川は、上流まで堰に魚道が設置しており、大型の回遊魚が上流部まで遡上している。一方、法勝寺川は、魚道の無い箇所も多く、ヨシノボリ類は確認されているが、その他の回遊魚は確認されておらず、関係機関と連携・調整し、上下流及び本・支川の移動の連続性の確保に努める。

○ 斐伊川水系

(河道計画)

【質問】神戸川の低水路を拡幅すると、平常時の流況が変わり、樹林化しないか。

【説明】これについては、河床掘削により平常時の流況に大きな影響を受けない堰湛水域と感潮域では、流下能力確保のために低水路の拡幅を実施し、順流区間では、低水路部分を極力改変しないよう掘削を実施しており、平常時の流況に大きな変化はない。

(環境)

【質問】日本海側に低気圧が通過したときに、海面が上昇し宍道湖への影響が大きいのではないかと。

【説明】中海、大橋川、宍道湖では、湖面風、河川水の流入や海水の入退などを考慮できるモデルとして平面二次元多層モデルを構築し、塩分をはじめ、湖内水位や流速等を計算している。平成 14 年台風 15 号は日本海側を通過し、既往最大の高潮が発生し、この高潮では大橋川から宍道湖に進入した塩分が、湖底部を這うように遡上している。平成 14 年台風 15 号が襲来した場合の大橋川改修後の塩分遡上の状況について予測すると、宍道湖で形成される高塩分水塊の大きさは、大橋川改修により大きくなるが、ヤマトシジミが生息している沿岸域までは到達せず、また宍道湖で発達した塩分成層が、風により消滅する状況も大きな変化はみられない。

(その他)

【意見】斐伊川は、大和川と並んで日本民族の発祥の地で歴史のある川なので、歴史的・文化的な背景を記載すべき。

【対応】本文に記載することとした。

河川整備基本方針検討小委員会名簿 大和川・吉井川・日野川・斐伊川水系

委員長(臨時委員)	福岡捷二	中央大学研究開発機構教授
専門委員	綾日出教	(社)日本工業用水協会顧問
専門委員	安藤重敏	鳥取市立逢坂小学校校長
臨時委員	池淵周一	京都大学名誉教授
専門委員	石島操	全国森林組合連合会代表理事専務
専門委員	入江登志男	(財)給水工事技術振興財団専務理事
専門委員	上河潔	日本製紙連合会常務理事
専門委員	岸井隆幸	日本大学理工学部教授
専門委員	楠田哲也	北九州市立大学大学院国際環境工学研究科教授
専門委員	小池俊雄	東京大学大学院工学研究系社会基盤学専攻教授
専門委員	坂本弘道	(社)日本水道工業団体連合会専務理事
専門委員	佐藤準	全国土地改良事業団体連合会専務理事
専門委員	千田稔	奈良県立図書館館長
専門委員	谷田一三	大阪府立大学大学院理学系研究科生物学専攻教授
専門委員	中川一	京都大学防災研究所流域災害研究センター教授
専門委員	中村幹雄	前島根県内水面水産試験場長
専門委員	波田善夫	岡山理科大学学長
臨時委員	松田芳夫	中部電力(株)顧問
委員	虫明功臣	福島大学理工学群共生システム理工学類教授

専門委員 森 誠 一 岐阜経済大学経済学部教授
 専門委員 森 田 昌 史 (財)日本水土総合研究所理事長
 臨時委員 橋 下 徹 大阪府知事
 (代理) 福 田 保 (都市整備部長)
 吉 田 八 左 右 (都市整備部河川室長)
 臨時委員 荒 井 正 吾 奈良県知事
 (代理) 川 崎 茂 信 (土木部長)
 臨時委員 石 井 正 弘 岡山県知事
 (代理) 西 本 善 夫 (東京事務所長)
 古 埜 雅 士 (土木部河川課長)
 臨時委員 平 井 伸 治 鳥取県知事
 (代理) 浦 上 将 人 (県土整備部次長)
 臨時委員 溝 口 善兵衛 島根県知事
 (代理) 玉 串 明 (土木部次長)